



となん

【学校経営目標】

【目指す生徒像】

**よりよい未来の創造と自己実現を目指し
学び活動する生徒の育成**

【学校教育目標】

[知] 自ら学ぶ意欲を持つ生徒

[徳] 豊かな心を持つ生徒

[体] 健康でねばり強い生徒



さきやまようしょう

発行者：校長 崎山 用彰

☆下中だより「となん」は、
学校HPから閲覧可能→→



生徒総会にも触れた言葉……

『『どうせ無理』の壁を壊し よりよい未来への扉を開こう!!』③

前号②の続き(最終回)です。ご一読ください。

彼は、自らの危険を顧みず、仲間たちと共にこの人頭税の廃止を訴え、東京にまで足を運び、ついにその廃止を成し遂げました。それは、個人の力では「どうせ無理だ」と思えるような



強大な相手に、正義と未来を信じる心、そして何よりも宮古島を愛する強い気持ちで立ち向かった、勇気ある行動の証です。

伊良部大橋や地下ダムの建設も、そして人頭税の廃止も、最初は「無理かもしれない」と思えるような、とてつもなく大きな困難が目の前に立ち

はだかっていたのです。しかし、そこにいたのは、「どうせ無理」と諦めてしまう人々ではなく、「どうしたら実現できるか」を考え抜き、知恵を出し合い、勇気を持って一步を踏み出し、そして何よりも決して諦めなかった人々です。もちろん、これらの大きなプロジェクトや歴史的な出来事の中では、数えきれないほどの試行錯誤や、うまくいかないこともあったでしょう。計画通りに進まないこと、予期せぬトラブル、意見の対立もあったのかもしれませんが、それら困難の一つ一つが、最終的な成功へと繋がる貴重な経験となり、学びとなったはず。そう、失敗は決して恥ずべきことではないのです。むしろ、挑戦したからこそ得られる、成長のための大切な糧なのです。私達の通う下地中学校も、皆さんが安心して失敗し、そこから学びや育ちを得られる大切な居場所です。伊良部大橋を架けた人々の情熱を、地下ダムを造り上げた人々の先見性を、そして人頭税廃止を成し遂げた人々の勇気を胸に、皆さんも「どうせ無理」という壁を恐れずに、アララガマ精神でどんどん新しいことに挑戦していきましょう。

これからもし皆さんが、一人で悩んでしまうことがあったら、周りを見渡してください。ここには、

皆さんを応援してくれる先生たちがいます。一緒に悩み、一緒に笑い合える友達がいます。そして、いつも皆さんのことを一番に考えてくれている保護者が、家族がいます。困った時、苦しい時は、遠慮なく助けを求めてください。誰かに相談することは、決して弱いことではありません。むしろ、問題を解決するための賢明な一歩です。



視点を变えて、この宮古島の自然も、私たちに多くのことを教えてくれています。台風が通り過ぎた後でも、たくましく緑の葉を広げる木々。どんなに強い風が吹いても、しなやかにそれを受け流すサトウキビ。そして、荒れた海が静けさを取り戻し、再び美しいエメラルドグリーンの輝きを見せてくれるように、困難な状況もいつかは過ぎ去

り、新たな希望が見えてくることを教えてくれます。時には、この美しい海や空を眺めて、心をリフレッシュし、新たな気持ちで物事に取り組むのも良いかもしれません。

皆さん、今日から「どうせ無理」という言葉を、心の辞書から少しずつ消していきませんか。そして、代わりに、「よし、やってみよう!」「できるはずだ!」「どうしたらできるかな?」という言葉、私たちの合言葉にしましょう。皆さんの可能性は、この宮古島のどこまでも広がる青い空や、深い海のように、無限に広がっています。その可能性を、自分自身で閉ざさないでください。

私たち教職員も、皆さんが勇気を持って新しいことに挑戦できるよう、全力でサポートします。この学校全体で、挑戦を称え、失敗から学ぶことを恐れない、そんな温かい雰囲気を作っていきたいと思っています。

今日のこの話が、皆さんの心に少しでも残り、これからの学校生活、そして未来を切り拓いていく上での小さなヒントになれば、校長としてこんなに嬉しいことはありません。

これで校長講話を終わります。ご清聴、ありがとうございました。

☆ぜひ、題名にある「よりよい未来への扉」を開くため、自分にできることを見つけ、「アララガマ魂」で挑戦していきましょう!